

# 凄い本

読書の季節、秋がやってきました！今年も読書週間特別企画として、篠崎図書館全スタッフが本を紹介。今回のテーマは「凄い本」。それぞれ、独自の理由で凄い！と感じた本をご覧ください。

(凡例)

凄いポイント

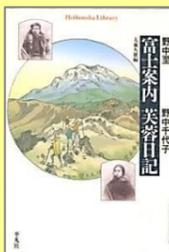
書影

本の紹介文

『書名』

著者名  
出版社  
請求記号  
所蔵館

夫婦の壮絶体験記



『富士案内  
芙蓉日記』

野中 至著  
野中 千代子著  
平凡社  
291.5チ  
篠崎所蔵

時は明治、高層気象観測の必要性を訴え、富士山頂での越年観測に挑んだ野中至と、夫の身を案じ山頂へ向かった妻・千代子。相次いで病に冒された二人の観測生活は壮絶を極めるものでした。強い志と夫婦の絆で命をかけて挑んだ、探検行動の記録を綴った一冊です。

世界中の路線図が  
この1冊に！



『世界の美しい  
地下鉄マップ』

マーク・オープンデン編著  
日経ナショナル  
ジオグラフィック社  
686オ  
篠崎ほか所蔵

路線図はすごい。シンプルなデザインでありながら、いくつもの重なり交わる路線を、その国の言語を知らない人でもわかるように表している。本書は世界166都市の路線図を集めたすごい本だ。昔の路線図もあり、その都市の歴史を路線図から感じることもできるのだ。

大どんでん返し



『神子上典膳』

月村 了衛著  
講談社  
BFツ  
篠崎所蔵

重臣の謀反により城を追われ、命を狙われる姫と小姓。二人が助けを求めたのは、神子上典膳と呼ばれる黒い長羽織姿の長身瘦躯の男だった——。手に汗握る逃走劇。ラストに仕掛けられた思いもよらぬどんでん返しに、「そうだったのか」と心の中で叫んでしまいました。

タブーを超えて



『「肌色」の憂鬱』

眞嶋 亜有著  
中央公論新社  
316マ  
篠崎ほか所蔵

「日本人離れした」という形容詞はだいたい良い意味で使う。筆者はその言葉の根底には日本人の自己否定の感覚があると述べ、ひたすらその心性を掘り下げる。内村鑑三や夏目漱石など、エリートたちの留学時の挫折体験の話が興味深かった。

九死に一生



『本当にあった奇跡の  
サバイバル60』

タイムズ著  
日経ナショナル  
ジオグラフィック社  
204ホ  
篠崎ほか所蔵

絶対絶命の危機からの奇跡的な生還や命がけの脱走・逃走など、にわかには信じがたい驚愕の実話ばかりです。想像を絶する極限状態の連続をどのように生き延びたのかを知ることができます。私達は、予測できない未来に備え、何か学び取れるのではないのでしょうか。

情景



『凄い！ジオラマ』

情景師アラーキー著  
アスペクト  
507シ  
篠崎ほか所蔵

実世界を観察し空想世界に写していく。リアルなジオラマは工作力と同じぐらいに「観察力」「想像力」が求められる。こうして創られた作品はゴミの一つ一つにもストーリーが見えてくる。CGとは違う、自然光を利用した模型ならではの質感が素晴らしい。

壮大なストーリー



『百億の屋と  
千億の夜』

光瀬 龍著  
早川書房  
BFミ  
篠崎ほか所蔵

哲学者プラトンがアトランティス王国の文書を求め、時空を超えた旅に出る。そして、シッタータ、ナザレのイエス、阿修羅たちも、人類の救済や最後の審判を説く絶対者の存在の謎にせまる。宇宙の創始から終焉の意味とは何かを問うているSF作品。

忍者もびっくり！



『こんなところに  
いたの？』

林 良博監修  
誠堂新光社  
481コ  
篠崎ほか所蔵

どうしてこんな色や模様をしているのかと思う動物や虫がいますが、その姿を彼らの暮らす自然の中で見てみると理由がわかります。本書の写真をよく見て彼らを探してみてください。その見事な隠れ技に驚きの連続です。間違い探しのような楽しさを味わえる一冊です。

ことばの力

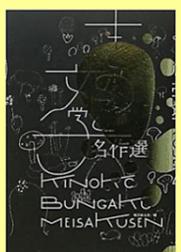


『水は答えを  
知っている』

江本 勝著  
サンマーク出版  
435エ  
篠崎ほか所蔵

この本は水を氷結させてその結晶を撮影したものです。ガラスの瓶に入れた水に「馬鹿野郎」や「ありがとう」の文字を見せたり、音楽を聞かせたり、その結果水はどんな結晶を見せてくれるのか、ご興味のある方はぜひご覧ください。

装丁



『きのこ文学  
名作選』

飯沢 耕太郎編  
港の人  
918キ  
篠崎ほか所蔵

きのこがテーマの日本文学作品を集めたアンソロジー。ユーモラスだったり不気味だったりする作品の魅力を一層引き立てているのがブックデザイナー祖父江慎による装丁だ。様々な字体や紙、美しい挿絵が駆使された頁をめくるうち、きのこの世界へと誘われていく。

チャレンジ精神



『アメリカ48州を  
車で回ってみた』

アベ マリコ著  
幻冬舎ルネッサンス  
295ア  
篠崎所蔵

30才でセスナの免許、40才で単独アメリカ3万キロ走破。愛車「カーリー」のごきげんをうかがいながら、さまざまなアクシデントにもめげないアラフォー女性。助手席に乗っている気分で、ハラハラドキドキ。自分も何かにチャレンジしたくなるすごい本です。